

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神戸国際大学
設置者名	学校法人 八代学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経済	経済経営	夜・通信	—	34 (24)	10	44	13	
	国際文化ビジネス・観光	夜・通信		20 (10)	24	44	13	
リハビリテーション	理学療法	夜・通信		0	30	30	13	
		夜・通信						
(備考) 学部等共通科目の( )内は、他学科科目の履修可能な単位数であり内数です。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/workexperience_teacher.pdf">https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/workexperience_teacher.pdf</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸国際大学
設置者名	学校法人 八代学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/the\\_board\\_of\\_trustees.pdf](https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/the_board_of_trustees.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	日本聖公会 神戸教区 主教	2018.4.1～ 2020.3.31	キリスト教教育担 当（建学の理念継 承）
非常勤	(有) サンスリービル代 表取締役	2018.4.5～ 2020.4.4	学院経営担当
非常勤	リンク総合法律事務所 所属弁護士	2018.4.5～ 2020.4.4	コンプライアンス 担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸国際大学
設置者名	学校法人 八代学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの作成方法に関するFDを専任教員・非常勤講師を対象に実施している。その際、ガイドライン(シラバスの作成方法)により「授業概要」「到達目標」「授業計画」「事前事後学修」「成績評価方法・基準」「受講心得」の説明を行っている。欠席者には、ガイドライン(シラバスの作成方法)を送付している。また、実務経験を持つ担当教員には実務経験の有無について、「どのような実務経験によりどのような教育を行うか」を明記するよう説明している。また、シラバスは3月末に完成し、4月1日に大学ホームページにより公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p><a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/subject/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/subject/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学の学士課程における単位認定にあたっては、各学部の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえた当該授業科目の位置づけとして相応しい到達目標を設定し、これに照らして学生の学修到達度を評価している。 評価については、授業科目の担当教員があらかじめ設定した試験、レポートなどの成果物や、受講態度、授業への貢献度などに拠って行っている。担当教員は、授業の内容および形態を考慮したうえで、学生の履修に際して学修到達度を適切に評価するために相応しい評価方法・基準を年度のはじめにシラバスで学生に明示し、その内容に基づいて厳格な成績評価を実施し単位を授与している。複数で担当する必修科目については、担当者間で協議し、評価が偏らないように配慮している。 また、成績発表後に学生が自身の成績評価に関して担当教員に照会できる制度を設けることで、成績評価の透明性を確保するようにしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA (グレードポイントアベレージ) は、一定期間において履修した各授業科目の成績に係る GP に当該授業科目の単位数を乗じて得た数値の総和を履修した各授業科目の単位数の総和で除して得た数値をいう。ただし、小数点第 3 位以下は切り捨てるものとする。</p> <p>授業科目の成績評価基準は、100～90 点を「S」、89～80 点を「A」、79～70 点を「B」、69～60 点を「C」、59 点以下を「D」(不合格) とする 5 段階評価とし、単位認定のために学生が達成すべき水準を 60 点以上としている。また、未受験の場合は「F」の無評価とする。</p> <p>また、学生の成績の相対的な位置を確認するために、学部ごとに学生の成績の分布状況を把握し、その資料を作成している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/gpa_credit_degree/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/gpa_credit_degree/</a></p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学部の教育目標を踏まえ、以下の知識や能力・技能を備え、各学部が定める卒業要件を満たした者に対し、学士の学位を授与する。</p> <p>○経済学部（経済経営学科）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学をはじめとする専門的知識と理論及びさらに幅広い知識と理論を身に付けている。</li> <li>2. コミュニケーションスキル、一般的ビジネススキル、情報リテラシーなどの汎用的技能を身に付けている。</li> <li>3. 外国語の学習や外国人とのコミュニケーションを通じ、グローバルな視野を身に付けている。</li> <li>4. 意見の違いや立場の違いを理解し、多様な人々とともに目標に向けて協力することができる。</li> </ol> <p>○経済学部（国際文化ビジネス・観光学科）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル社会で起こる諸問題を発見し解決への道筋を分析し、論理的に思考できる。</li> <li>2. コミュニケーションスキル、一般的ビジネススキル、情報リテラシーなどの汎用的技能を身に付けている。</li> <li>3. 外国語の学習や外国人とのコミュニケーションを通じ、グローバルな視野を身に付けている。</li> <li>4. 意見の違いや立場の違いを理解し、多様な人々とともに目標に向けて協力することができる。</li> </ol> <p>○リハビリテーション学部（理学療法学科）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と倫理観、ホスピタリティマインドを持っている。</li> <li>2. 理学療法士としての知識および評価・治療の技術を修得している。</li> <li>3. 医療の進歩に対応できるリハビリテーション技術や知識を修得するたゆまない探究心を持っている。</li> <li>4. 多職種との協働によるチーム医療を理解し、医療従事者として適切な接遇をすることができる。</li> </ol> <p>上記の卒業認定に関する方針や学生の取得単位数等を踏まえて、卒業認定を行っている。</p> <p>なお、学生は学部所定の教育課程を履修し、経済学部では 124 単位以上、リハビリテーション学部では 126 単位以上を修得しなければならない。</p> <p>また、卒業判定の手順として「教員による成績判定、Web 入力」「成績処理」「教務委員会審議」「教授会（卒業判定会議）」を経て決定する。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/</a>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸国際大学
設置者名	学校法人 八代学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018taisyakutaisyo.pdf">https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018taisyakutaisyo.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018sikinsyusi.pdf">https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018sikinsyusi.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018zaimumokuroku.pdf">https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018zaimumokuroku.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018jigyohoukoku.pdf">https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018jigyohoukoku.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018kansahoukoku.pdf">https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-34_2018kansahoukoku.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-39_2015jikohyoka.pdf">https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-39_2015jikohyoka.pdf</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-39_2015daigakukikanbetuninsyohyoka.pdf">https://www.kobe-kiu.ac.jp/wp-content/themes/kiu/pdf/a-39_2015daigakukikanbetuninsyohyoka.pdf</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/educational_policy/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/educational_policy/</a> ) (概要) 経済学部の目的は、建学の精神に基づき、物中心から人間中心へと主軸を移した経済学を学問的基盤に据え、経済学の理論と実践力を備え、グローバルな視野と豊かな教養、人間性を持った有能な人材を育成することとする。 ○経済経営学科 経済経営学科の目的は、経済学・経営学に関する知識を修得し、現代の複雑な経済社会においてグローバルな視点を持って活躍できる人材を育成することとする。 ○国際文化ビジネス・観光学科 国際文化ビジネス・観光学科の目的は、国や地域の文化と結合したより良き人間生活を実現するビジネスについて学び、グローバルな視点を持って現代社会の発展に貢献できる人材を育成することとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/</a> ) (概要) 本学部の教育目標を踏まえ、以下の知識や能力・技能を備え、本学部が定める卒業要件を満たした者に対し、学士の学位を授与する。 ○経済経営学科 1. 経済学をはじめとする専門的知識と理論及びさらに幅広い知識と理論を身に付けている。 2. コミュニケーションスキル、一般的ビジネススキル、情報リテラシーなどの汎用的技能を身に付けている。 3. 外国語の学習や外国人とのコミュニケーションを通じ、グローバルな視野を身に付けている。 4. 意見の違いや立場の違いを理解し、多様な人々とともに目標に向けて協力することができる。 ○国際文化ビジネス・観光学科 1. グローバル社会で起こる諸問題を発見し解決への道筋を分析し、論理的に思考できる。 2. コミュニケーションスキル、一般的ビジネススキル、情報リテラシーなどの汎用的技能を身に付けている。 3. 外国語の学習や外国人とのコミュニケーションを通じ、グローバルな視野を身に付けている。 4. 意見の違いや立場の違いを理解し、多様な人々とともに目標に向けて協力することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：[https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/curriculum\\_policy/](https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/curriculum_policy/))

(概要)

本学部では、教育目標に掲げる人材を育成し、かつディプロマ・ポリシーで明示した学修成果を実現するために、基礎から応用にいたる科目を体系的に配置する。

○経済経営学科

1. 四年間を通じ少人数ゼミを実施し、プレゼンテーション能力の向上のためにアクティブラーニングに取り組む。
2. 1年次では、大学の学修で求められる基本的リテラシーの習得を目指し、少人数のゼミ形式で授業を展開する。またキャリア形成への意識を高めるためジョブパス3級の全員取得を目指す。英語教育では少人数制でクラス編成をし、必修科目・選択科目を設け、個々の学生のニーズに沿った教育を行う。
3. 2年次以降は、キャリア形成の基礎となる専門教育を実施することを目的とし、本学科7コース、両学科共通1コースを設け、個々の学生の多様な意欲や主体性に応じ、さらに三年間同じゼミナールでの教育指導を実施することにより、専門性の高い職業人の育成を目指す。

○国際文化ビジネス・観光学科

1. 四年間を通じ少人数ゼミを実施し、プレゼンテーション能力の向上のためにアクティブラーニングに取り組む。
2. 1年次では、大学の学修で求められる基本的リテラシーの習得を目指し、少人数のゼミ形式で授業を展開する。またキャリア形成への意識を高めるためジョブパス3級の全員取得を目指す。英語教育では少人数制でクラス編成をし、必修科目・選択科目を設け、個々の学生のニーズに沿った教育を行う。
3. 2年次以降は、キャリア形成の基礎となる専門教育を実施することを目的とし、本学科5コース、両学科共通1コースを設け、個々の学生の多様な意欲や主体性に応じ、さらに三年間同じゼミナールでの教育指導を実施することにより、専門性の高い職業人の育成を目指す。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：[https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/admission\\_policy/](https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/admission_policy/))

(概要)

経済学部での目的は、建学の精神に基づき、物中心から人間中心へと主軸を移した経済学を学問的基盤に据え、経済学の理論と実践力を備え、グローバルな視野と豊かな教養、人間性を持った有能な人材を育成することとする。

こうした教育理念・目標に基づき、以下のような人が入学することを歓迎する。

1. 日本や世界の社会問題に深い関心を持つ人
2. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人
3. 大学で修得した外国語や専門知識を活かし、国際的な舞台で活動・貢献する意志を持つ人

<p>学部等名 リハビリテーション学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/educational_policy/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/educational_policy/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>リハビリテーション学部理学療法学科の目的は、建学の精神に基づき、リハビリテーション医療の原点である「全人的復権」の基に「人間の保健・福祉」を追求する学問的基盤に立って、特にリハビリテーションの中核的担い手である、高い専門的知識と技術、及び豊かな教養と人間性を持つ有能な理学療法士を養成することとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/diploma_policy/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部の教育目標を踏まえ、以下の知識や能力・技能を備え、本学部が定める卒業要件を満たした者に対し、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と倫理観、ホスピタリティマインドを持っている。</li> <li>2. 理学療法士としての知識および評価・治療の技術を修得している。</li> <li>3. 医療の進歩に対応できるリハビリテーション技術や知識を修得するたゆまない探究心を持っている。</li> <li>4. 多職種との協働によるチーム医療を理解し、医療従事者として適切な接遇をすることができる。</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/curriculum_policy/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/curriculum_policy/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部では、教育目標に掲げる人材を育成し、かつディプロマ・ポリシーで明示した学修成果を実現するために、基礎から応用にいたる科目を体系的に配置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業科目は、学生の学びのステップを考慮し、「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の各科目群によって体系的に構成する。「教養科目」は豊かな人間性・社会性及び教養をもち、国際化、情報社会に対応できることを念頭におき、一般教養と専門教育への基礎を兼ねた科目を学習する。建学の精神に基づく宗教教育をはじめとする「人間形成と思考」と「ことばと国際文化」の二分野を教育内容とし、主に1年次に修得する。</li> <li>2. 2年次以降は、知識や技術を習得するための基盤となる「専門基礎科目」と専門性を高める「専門科目」を配置する。4年次には国家試験対策を学部全体で実施し、理学療法士国家試験合格レベルの知識・技術を修得する。</li> <li>3. 臨床教育では、学内教育と協調しながら教育を進めるために、「理学療法概論演習」において早期臨床体験を実施し、2～4年次以降の「臨床実習」にて基本的な理学療法の修得を図りながら周囲との協働によるチーム医療を経験する。なお、患者や利用者と接するために求められる接遇マナーについても、毎年次講座を開講することでマナー意識の向上を図る。</li> <li>4. 教育方法は、教員の一方的な講義によって進めるのではなく、OHP やスライド、AV 機器などを活用する。また、教員と学生間の双方向的な活動を採用し、6～7名の少人数でグループワークを積極的に取り入れた「研究法セミナー」も配置し、アクティブラーニングを実践する。</li> </ol>

<p>入学者の受入れに関する方針  <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/admission_policy/">(https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/admission_policy/)</a></p>
<p>(概要)  リハビリテーション学部理学療法学科の目的は、建学の精神に基づき、リハビリテーション医療の原点である「全人的復権」の基に「人間の保健・福祉」を追求する学問的基盤に立って、特にリハビリテーションの中核的担い手である、高い専門的知識と技術、及び豊かな教養と人間性を持つ有能な理学療法士を養成することとする。  こうした教育理念・目標に基づき、以下のような人が入学することを歓迎する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションを通して人の役に立ちたいという大きな自覚を持ち、人に対する思いやりや愛情を適切に表現しようとする人</li> <li>2. 医療専門職者として多職種とのチーム医療を理解し、また高い目的意識と学問への探究心を持ち、専門的知識と技術の習得に積極的に取り組もうとする人</li> <li>3. リハビリテーションを総合的に捉え、地域社会のリーダーとして活動や貢献する意志を持った人、また将来国際的な舞台で活動する意志を持った人</li> </ol>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：  <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/introduction/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/introduction/</a>  <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_faculty/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_faculty/</a>  <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_office/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_office/</a>  <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_yashiro/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/organization_yashiro/</a></p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
経済	—	15人	12人	4人	0人	0人	31人
リハビリテーション	—	9人	2人	3人	5人	0人	19人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
—		117人					117人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/economics/teacher/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/economics/teacher/</a> <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/rehabilitation/teacher/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/rehabilitation/teacher/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
大学の建学の精神・役割を実現するため、教員の質的向上・資質改善を目的として以下のFDを実施している。							
1) FD研修会を毎年度3～4回実施している。 対象は専任教職員。 各研修のテーマ：学生教育指導、大学ガバナンス、高等教育における質保証、高大連携等 講師は、外部講師（文部科学省高等教育局、他大学教員等）、または学内の教職員。 高大連携をテーマとする研修の際は、附属高校の教諭も参加する。							

- 2) 研究不正防止にかかる研修会を毎年度1回実施している。  
対象は専任教員。  
テーマは、研究論文不正防止、研究倫理・社会的責任の周知  
講師は、担当副学長。
- 3) 学生アンケートに基づく教員表彰を毎年度1回実施している。  
対象は専任教員。  
学生アンケートの高得点を得た授業（担当者）を抽出し、公開授業を行い、審査を経て  
教員表彰を行う。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済	300人	375人	125%	1200人	1467人	122%	－人	2人
リハビリテー ション	80人	92人	115%	320人	322人	100%	－人	0人
合計	380人	467人	123%	1520人	1789人	117%	－人	2人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済	272人 (100%)	18人 ( 6.6%)	186人 ( 68.4%)	68人 ( 25%)
リハビリテー ション	77人 (100%)	0人 ( 0%)	75人 ( 97.4%)	2人 ( 2.6%)
合計	349人 (100%)	18人 ( 5.2%)	261人 ( 74.8%)	70人 ( 20.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/career/economics_support/employment/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/career/economics_support/employment/</a> <a href="https://www.kobe-kiu.ac.jp/career/rehabilitation_support/employment/">https://www.kobe-kiu.ac.jp/career/rehabilitation_support/employment/</a>				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>シラバスの作成方法に関するFDを専任教員・非常勤講師を対象に実施している。その際、ガイドライン（シラバスの作成方法）により「授業概要」「到達目標」「授業計画」「事前事後学修」「成績評価方法・基準」「受講心得」の説明を行っている。また、担当教員における実務経験の有無について、「どのような実務経験によりどのような教育を行うか」を明記するよう説明している。</p> <p>また、シラバスは3月末に完成し、4月1日に大学ホームページにより公表されている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>本学の学士課程における単位認定にあたっては、各学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた当該授業科目の位置づけとして相応しい到達目標を設定し、これに照らして学生の学修到達度を評価している。</p> <p>評価については、授業科目の担当教員が試験、レポートなどの成果物や、受講態度、授業への貢献度などに拠って行っている。担当教員は、授業の内容および形態を考慮したうえで、学修到達度を適切に評価するために相応しい評価方法・基準を年度のはじめにシラバスで学生に明示し、その内容に基づいて厳格な成績評価を実施している。複数で担当する必修科目については、担当者間で協議し、評価が偏らないように配慮されている。</p> <p>また、成績発表後に学生が自身の成績評価に関して担当教員に照会できる制度を設けることで、成績評価の透明性を確保するようにしている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済	経済経営	124 単位	有・無	48 単位
	国際文化 ビジネス・観光	124 単位	有・無	48 単位
リハビリテーション	理学療法	126 単位	有・無	48 単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： <a href="https://www.kobe-kui.ac.jp/about/information/gpa_credit_degree/">https://www.kobe-kui.ac.jp/about/information/gpa_credit_degree/</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/campus/>

<https://www.kobe-kiu.ac.jp/about/information/access/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済	経済経営	770000円	300000円	207000円	施設拡充費、設備維持費等
	国際文化 ビジネス・ 観光	770000円	300000円	207000円	施設拡充費、設備維持費等
リハビリテ ーション	理学療法	1440000円	300000円	207000円	施設拡充費、設備維持費等
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

○奨学金制度は、経済的理由により修学が困難な学生に一定の金額を貸与または給付することにより、学費・生活費の負担を軽減し、少しでも学業を継続しやすい環境をつくることを目的としている。奨学金には、大学の奨学金制度をはじめ、各地方公共団体・民間育英団体などがある。いずれの奨学金も、学力、人物、経済状況を考慮し選考する。外国人留學生を対象にした制度も用意している。

1. 神戸国際大学奨学金

神戸国際大学の学則第48条に基づき、勉学意欲旺盛かつ成績優秀な学生で就学困難な者に奨学金を支給する。

採用人数は若干名とし、学業成績、保護者の収入状況、面接を審査して採用を決定する。

採用は当該年度とし、毎年募集をする。

2. 神戸国際大学授業料減免

神戸国際大学の学則第48条に基づき、学生で災害等によって授業料の納付が困難な者に対し、減免をする。

減免を受けようとする者は、減免願に罹災証明書等を申請し、決定された場合は原則として災害発生時の次期授業料から半期・通年の各期納付額の全額又は半額とする。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

4年間一貫したキャリア教育・支援を行うためキャリアセンターにて各種進路選択支援を実施している。

就職ガイダンスや筆記試験対策講座、面接対策講座等、年間を通じた講座の開催のほかインターンシップ参加支援を行っている。

またキャリアカウンセリング(就職・進路相談)においては、3年、4年次のゼミナールごとに担当キャリアカウンセラーを配置し、個別対応の形式により学生一人ひとりに対して細やかなカウンセリング・相談に応じている。各種求人管理や対象学生への求人情報のメール配信、履歴書の添削、面接試験に向けた指導・支援等により内定獲得・進路決定へと導いている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康維持・増進のために保健センターを設置している。身体の健康については学校医と看護師が、学校保健安全法に基づき健康診断および学内における突然の病気や怪我の応急処置を実施している。また、こころの健康については臨床心理士・公認心理士の資格のあるカウンセラーがカウンセリングを行っている。対話スペースも設置し、気楽に利用できるように配慮し、有意義な学生生活が送れるようにあらゆる相談に対応している。

特に、新入生に対しては、アンケート調査を行い、新入生全員を対象に面接をして、早い時期に大学不適合学生を把握して支援するよう取り組んでいる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

<https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/economics/teacher/>

<https://www.kobe-kiu.ac.jp/faculty/rehabilitation/teacher/>